

令和3年10月1日

敬愛短大附属幼稚園だより 10月号

ワクチンの接種が進みつつありますが、緊急事態宣言が出されている状況下で、いつもなら実施できている様々な行事や取り組みが中止や延期、規模の縮小といった事態がたくさん増えてきています。そのような中でも幼稚園の先生方は様々な科学的環境づくりを進めていて、のこぎりを片手に子どもたちが楽しんで遊べる場づくりのために、木材を切ったり、ペンキを塗ったりと毎日休みなく動いています。そのような状況ですが、今月もいくつも感動させられることがありましたが、その中から一つの例をご紹介します。

「心が動く」とはどういうことか

辞書上では、心が引きつけられる。関心をもつ。その気になる。気持ちが動揺する。心が乱れるとあります。

心を動かされるときは予想を超える驚き、感動、喜びがあり、更に、心を動かすには、相手に驚きや感動を感じてもらえるように意識することが大切です。そして、何よりも、人間は理屈よりも気持ちで動くものです。

学校や家庭でも理詰めでも子どもに話しても大人が思うようにならないのは、人間が本来持っている感情が摩擦となってブレーキをかけるためなのではないでしょうか。

先日、幼稚園で「チャレンジしますので見てください」と子どもが園長室に呼びに来てくれました。「チャレンジ」とは、敬愛幼稚園で一年間を通して行う、運動・ことば・あやとり・けん玉・コマ回し・一輪車等について、学年ごとに到達目標が定められたもので、担任の先生と一緒に練習をして、できるようになると自ら申告して挑戦するものです。例えば、登り棒は何色のところまで、鉄棒は前回りや逆上がり、ことばでは、「春の七草・秋の七草」、「じゅげむ」等、チャレンジできる種目はいくつもあって、1日にチャレンジできるのは1つまでと決められています。

今回は年長さんの男児が縄跳びにチャレンジ（年長さんの到達目標は30回）するというこで呼ばれました。

普段の練習では最高でも26回とのことでしたが今日はチャレンジしてみますとのことで縄跳びをお友達の見守りの中でスタートしました。見守ってくれているお友達の多くは既にチャレンジで合格しています。縄跳びチャレンジを開始するのですが、何回行っても最大20回から27回で失敗してしまいます。

周りのお友達も大きな声で応援してくれています。何回も行うので、疲れて息もあがっています。水筒の水を飲みにも3回も50m先まで走って往復します。そしてまたチャレンジしますが疲れ果てて数回で終わってしまいます。また、20回を超えてもあと少しのところまで失敗してしまいます。既に顔も真っ赤です。それでもあきらめようとせずにまたチャレンジを繰り返します。

もう疲れたでしょうから別の日にしてはどうかと思うようになるくらい状態ですが、担任の先生もその間、次回にしようとは言わずにずっと温かな眼差しで見守っています。

そしてとうとう何十回繰り返したかも忘れるくらいの時にその子は33回も飛ぶことができました。子どもが座り込むほどあれだけ疲労しているのにも関わらず、あきらめずに挑戦し続けたことも感動したのですが、この子は必ずできると信じてじっと待ち、温かい眼差しを送り続けた担任の先生の姿にも感動を覚えました。今日はチャレンジを頑張り続けた子・応援していた子・見守ってくれた先生の3つの感動で心が動かされました。今日の出来事は何気ない事かもしれませんが、何か得をしたような気分になり、コロナ禍で子どもたちも十分に他のお友達と遊ぶこともままならない社会環境下ですが私自身の心も温まりました。

職業などの社会生活で人を感動させ、多くの人の心を揺り動かしたら素晴らしいし、そんな事の出来る自分にエールを送ってみたいありませんか。

(園長 杉山清志)